



〈 解 説 〉

シダレヤナギ

(ヤナギ科、ヤナギ属の種、別名：イトヤナギ、
学名：*Salix babylonica* Linn.、中国名：水柳、英語名：Weeping Willow)

この種は、雌雄異株で、樹高25m、直径50cmにもなり、枝が柔軟で長く下垂するのが特徴です。葉は、線状の細長く（披針形）、時に20cmにもなり、先端が尾状に尖ります。

学名（種小名）のbabylonicaは、バビロニアの意味で、その地に生えていた個体で植物学者のリンネが命名しました。しかし、この種の原因は、中国の中南部地方であり、特に、揚子江沿岸に多く自生するといわれています。今では、その樹形の特異さから中国はもとより朝鮮、日本など世界各地で栽培されています。この種は、水湿地に耐えてよく育ち、成長も早いという特徴があります。材が柔らかいため、箱や楊枝などの材料にしますが、公園や庭園樹、街路樹として植えられることのほうが多いようです。

この写真は、小金井キャンパスのBASE建物の西、芝生の中に風にそよぎながら立っている本種です。4月はじめ、この木の横で新入生を歓迎する円陣が大学らしさを醸し出しています。